

若竹

第六十八号



愛媛県神道青年会 再発足45周年奉告祭

愛媛県神道青年会

事務局 〒792-0823

愛媛県新居浜市外山町 7-33

浦渡神社 内

TEL 0897-41-7082

FAX 0897-47-3552

URL <http://www.ehimeshinsei.net/>



愛媛県神道青年会

検索



巻頭言

新年度挨拶

愛媛県神道青年会

会長 柳原 永祥



先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますと共に、各御社頭の御隆昌を心よりお祈り申し上げます。

常日頃より、会員はもとより先輩諸兄を始め神社庁及び各神社宮司様方の格別なる御理解御協力を頂きまして、諸事滞りなく遂行できまします事を衷心より篤く御礼申し上げます。

此の度、十亀雅史前会長より指名され、臨時総会にて承認を戴き会長に就任致しました。このような大役を任せられ、責務の重大さに身の引き締まる思いであります。元より浅学非才の身でありますので、多々ご迷惑をかけるかと存じますが、一層の御指導御鞭撻を切にお願いすると共に、本会発展の為に努力を惜しまない覚悟で御座います。何卒宜しくお願い申し上げます。

また、昭和四十七年八月に再発足し、先輩諸兄が築き上げてこられた本会は、本年度にて再発足四十五周年の節目の年を迎えることとなりました。脈々と続く伝統を受け継ぎながらも「現状維持は衰退也」の精神を持ち、青年神職として行すべき事業を展開して参ります。そして次の世代が若竹の如く成長できる強固な節目にしたいと考えています。

更に本年は明治神宮競技大会が前身となる国民体育大会が愛媛県にて行われ、天皇皇后両陛下を始め皇族の方々が御来県遊ばされる目出度き年でもあります。関係団体と連携しながら誠心を込めて盛大に奉迎申し上げます。

今期の方針は「神道教化に関する発信と基礎固め」と致します。現在は伊勢の神宮への参拝者数増加や、御朱印集めの流行等、神社界において良き報せも耳にしますが、人口減少、少子化、過疎化と特に地方の氏子数は大きく減少し大変な時代が到来しています。神社とお寺の違いも分からないような人が多く存在するのが現状で、神社について理解が深まっているとは言えない状況です。神社の歴史や意義等、様々な媒体を使って発信し、教化していく必要があります。その為には神主自身が深い知識を有している必要があり、神道については勿論のこと、皇室について、地域の歴史、時局問題等、多岐に亘る分野を学び、これからの神職人生の礎となる期間にしたいと考えております。

周年事業では五月三十日に行った奉告祭、榊の挿し木での育成方法を学ぶ事業を皮切りに、記念米作り、太鼓の映像記録保

存を柱と致します。記念米作りにおいては御田植祭から始まり、草抜きと拔穂祭まで、神事は勿論のこと、無農薬栽培の田圃にて作業も行います(主な田圃の管理は委託しています)。斎庭稲穂の神勅を賜ってから永い歴史を持ち、日本人の生活には切っても切り離せないお米。しかし米作りに従事する人口は減少しており、それに関わる神事の経験がない神主も増えてきました。今一度基本の部分に立ち返り、山の神様、田の神様から恵みを頂戴していることを稲作を通して感じたいと思います。また太鼓の映像記録保存では、県内全支部の支部長に確認をして、地方に残る太鼓の拍子を探し、それをDVDに残すと共に、譜面もデータ化し後世に打ち方を継承致したく思案しています。

憲法改正において大きな動きがあり、五月三日に安倍総理から具体的な期間の提示がありました。北朝鮮より毎月のように飛翔体が発射され、日本の排他的経済水域にも落下している異常事態の中、国民の生命と財産を守る憲法に改正することは急務です。国会議員の三分の二以上で発議された後は国民投票が待っています。そこで過半数を獲得できるよう、憲法に関する正しい知識を周知徹底し、更に気運を高めていきたいと思っております。

最後になりましたが、数年前、伊勢にて行われた中堅神職研修に参加した際、とある講師先生が講義の最後にこう言われました。「色々説明しましたが、結局神主さんは勉強しないんですよ。」青年神職の短い間に基礎を固め、共に活動する中で発信する力を身につけて参りましょう。

祝祭日には国旗を掲げましょう

愛媛県神道青年会 今期の方針

「神道教化に関する発信と基礎固め」

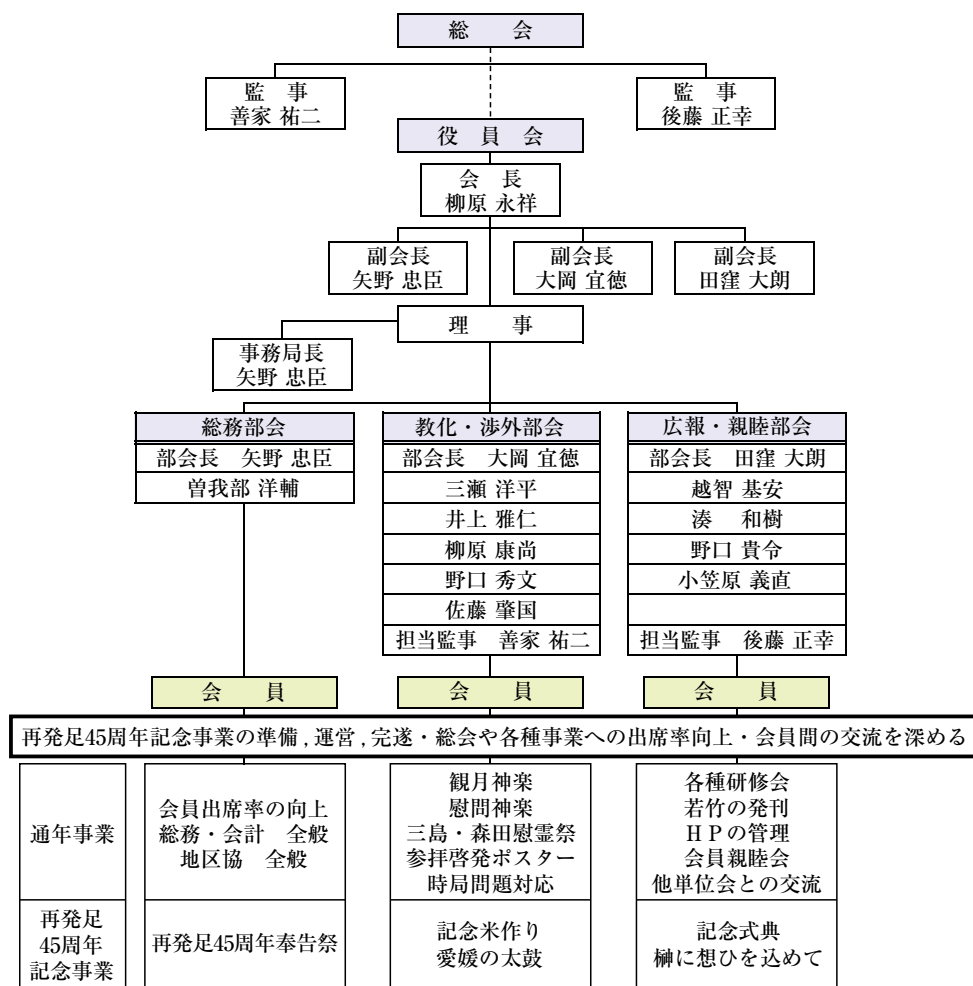
・神道教化に関する発信

神職として神事を第一優先することは勿論と致しまして、氏子崇敬者を教化していくこと、その情報を発信していくことも大切です。脈々と受け継がれてきた教えを次の世代に継承出来るよう、発信力の強化に努めて参ります。

・基礎固め

何事も基礎が肝心であり、地味な努力の積み重ねが礎を築いていきます。神職としての知識を蓄えると共に時局問題等に関しても正しい情報を集積し、積極性・自発性を高め、支えて頂いている皆様方への感謝の心を常に持って、それに応えるべく青年神職の資質向上に取り組んで参ります。

平成29～30年度 愛媛県神道青年会 組織図



先ず神事、後諸事
青年会事業に共に参加し、学んで、楽しみましょう！

新役員紹介



理事 越智 基安(オチモトヤス)
昭和五十四年三月二十三日生
三島神社 宮司
縁を結ぶは神職の務め。活動を通じて様々な縁を紡ぎ、広めていきましょう!



副会長 大岡 宜徳(オオカヨシノリ)
昭和五十二年十一月一日生
白山神社 欄宜
愛媛県では初理事として副会長を仰せつかりました。副会長の職責を全う致します。



副会長 田窪 大朗(タクボトモアキ)
昭和五十七年十一月十一日生
吹揚神社 欄宜
その障子の先に何があるのか、その好奇心を形へ



理事 三瀬 洋平(ミセヨウヘイ)
昭和五十四年七月二十九日生
三島神社 欄宜
出逢いと繋がりを大切にして、努めて参ります。



理事 井上 雅仁(イノウエマサヒト)
昭和五十五年二月十五日生
大元神社 欄宜
結

会長

柳原 永祥(ヤナギハラエイショウ)
昭和五十九年十月二十五日生
嚴島神社 欄宜
一人は皆の為に、皆は一人の為に感謝の気持ちを持って共に汗をかきましょう!



理事 野口 貴令(ノケチタカハル)
昭和五十九年二月十四日生
伊佐爾波神社 欄宜
未熟者ですが精一杯努めて参りますので、宜しくお願いします。



理事 野口 秀文(ノケチヒデアミ)
昭和五十八年八月二日生
川上神社 欄宜
ただ一つ共感を得ることを目指し、勇気を持って参ります。



理事 柳原 康尚(ヤナギハラヤスヒサ)
昭和五十八年二月二十五日生
河崎神社 宮司
知恵はまだまだ足りませんので、汗出して頑張りたと思います。



理事 湊 和樹(ミナトカズキ)
昭和五十五年十月十三日生
石鎚神社 欄宜
浄明正直(楽しく)努めます。



理事 佐藤 肇国(サトウハツクニ)
昭和六十二年六月二十二日生
三島神社 宮司
皆様の迷惑ないよう努めて参りたいと思います。宜しくお願い致します。

理事

曾我部 洋輔(ソガベヨウスケ)
昭和六十年十二月五日生
石鎚神社 欄宜
今期初めて理事。総務部会計を担当させて頂きます。微力ですが精一杯頑張り参ります。

任期二年
自 平成二十九年四月一日
至 平成三十一年三月三十一日



監事 後藤 正幸(ゴトウマサユキ)
昭和五十七年七月二十六日生
高忍日賣神社 欄宜
会務に対し適切なサポートができるよう、共に汗をかきたいと思ひます。



監事 善家 祐一(ゼンケマサジ)
昭和五十二年三月八日生
龍王神社 欄宜
会務運営のお目付役として、柳原丸が二年後に大手を振って入港するまでしっかりと舵取りして参ります。



理事 小笠原 義直(オガサワヨシナオ)
平成三年十一月十日生
伊豫豆比古命神社 欄宜
若いながらに精一杯やらせて頂きます!宜しくお願い致します!



理事 小笠原 義直(オガサワヨシナオ)
平成三年十一月十日生
伊豫豆比古命神社 欄宜
若いながらに精一杯やらせて頂きます!宜しくお願い致します!



理事 曾我部 洋輔(ソガベヨウスケ)
昭和六十年十二月五日生
石鎚神社 欄宜
今期初めて理事。総務部会計を担当させて頂きます。微力ですが精一杯頑張り参ります。

役員改選し心機一転!
一期二年宜しくお願い申し上げます。役員一同

臨時総会・研修会・互礼会



【報告者】
愛媛県神道青年会 理事
三島神社
権欄宜 三瀬 洋平

去る一月十九日、国際ホテル松山に於いて、平成二十八年度臨時総会、新年研修会並びに新年互礼会が開催されました。臨時総会では、任期満了に伴う役員改選に関する件が上程され、柳原永祥新会長をはじめとする役員案が満場一致で可決されました。



しっかりと握手が引き継がれました！



次に、亀井製菓株式会社代表取締役会長の亀井好一氏を講師にお迎えし、新年研修会が行われました。栗入りタルト、坊ちゃん団子、坂の上の雲など、あまりにも有名な松山銘菓を手掛けられている

亀井会長ですが、昭和二十年八月六日、広島で爆心地から約二キロの場所で大爆撃されました。わずか八歳での出来事でした。「今こうして、皆さんの前で話をさせていたかく事は、まさに奇跡といえるような人生を歩んできました」そう切り出され、凄惨な原爆の体験をお話いただきました。それはとても天気の良い朝だったこと、近くの公民館で、ビー玉で遊んでいたこと、朝日を浴びた銀色の飛行機が飛んできたこと、爆風に飛ばされ記憶が無くなり気が付くと辺りは一変していたこと…。私は、年少の頃の記憶が七十二年経った今でも、鮮明に残っていることに驚きました。それほどまでに惨たらしいご経験であったのだろうと思います。

原爆投下後、川には、幾重もの死体が浮かび、それは人間だけではなく犬や家畜の死体も一緒になっていたそうです。河口近くの福島川は干満の差が大きく、それらの

死体が汐の満ち引きとともに、ゆっくりと上流に行ったり戻ったりしていたというお話には、何時かのホラー映画で見た地獄絵図を思い出し、とてもこの世で起こったこととは思えませんでした。

今、私の目の前にはその現場を生き抜いた方がいらつしやり、忝くもこの体験談をお聞かせいただけるということは、もったいないほど有り難いのと同時に、私どもは後世へ語り継ぐ責任があつて、それは義務ともいえるのではないかと感じました。

研修会後の互

礼会には、愛媛県神社庁長の柳原幸様をはじめ、多くのご来賓、先輩方のご臨席を賜わり、盛大に行われました。滅多にお会いすることのできない先生方とお話しさせて



柳原 幸 庁長より御挨拶を賜りました

いただきました。終わりに、お忙しい中ご講義賜わりました亀井会長、互礼会にお越しいただきましたご来賓の先生方に深く感謝申し上げます、ご報告とさせていただきます。

新年研修会・互礼会に是非ご出席下さい！

第十九回 慰問神楽 ～砥部町立宮内小学校～



【報告者】
愛媛県神道青年会 理事
川上神社
欄 宜 野口 秀文

去る一月二十六日、伊予郡砥部町の宮内小学校にて慰問神楽を開催させて頂きました。

今回で第十九回を数えるこの慰問神楽ですが、善家副会長の母校という御縁もあり、宮内小学校にて四・五・六年生の児童を対象とした音楽授業の一環として実施する運びとなりました。

十亀会長による開会の挨拶に続き、笙・箏・龍笛の演奏に合わせた児童全員の国歌「君が代」斉唱を以て幕が開きました。



【第一部次第】

国歌斉唱
浦安の舞
越殿楽
弓の舞

【第二部次第】

楽器紹介
楽器体験
陪臚
内舞



笙吹きとして初めて当行事に参加することになった私は、児童たちが如何に聴き如何に楽しんでもらえるだろうかと思いつつ臨みましたが、親しみある「君が代」を歌いながらも物珍しそうに伴奏の雅楽器の音と姿を窺う児童たちを眺めながら、気の早い満足と安堵を覚えました。

次いで児童たちは石鎚神社巫女による「浦安の舞」の麗しさに見惚れ、伊豫神楽「弓の舞」の迫力に目を見開き、放たれた矢には感嘆の声が上がりました。

「越殿楽」を演奏している最中にもやはり興味深げな眼差しを感じましたが、その熱心さにも関わらず、演奏前後の際の静寂が守られていたことには甚く感心させられました。

一旦の休憩を挟み、楽器紹介、その後に楽器体験として児童たちに笙・箏・龍笛、鞆鼓・太鼓・鉦鼓に触れて頂きました。楽器の周りに群がり急ぐように列をなし、楽しそうに音を鳴らそうとする様子は、見ていて嬉しいものでした。

先生方を含めて殆どの方が今回初めて雅楽・舞・神楽を直に鑑賞したようで、貴重な経験が得られたと感謝のお言葉を頂きました。

これを機に児童たちが日本の伝統文化に対する関心を深め、自分たちの守り継ぐべき文化であると認識するようになって頂きたい。そのように願って已みません。

最後になりましたが、今回の慰問神楽開催に当たりご協力を頂きました宮内小学校東和博校長先生を始め諸先生方、遠方よりご参加頂きました伊豫神楽の皆様には改めて御礼申し上げます。



再発足45周年事業として、愛媛県内の太鼓DVDと楽譜を作成します。
伝統を絶やしません。御協力を御願います。

香川県神道青年会 創立六十周年記念式典



【報告者】
愛媛県神道青年会 監事
高忍日賣神社
棚 宜 後藤 正幸

去る二月八日、高松国際ホテルに於いて香川県神道青年会創立六十周年記念式典が開催され、当会からは六名が出席致しました。

先ず式典では田代会長による式辞や会長経験者への感謝状贈呈、松岡弘泰香川県神社庁長・長友安隆神道青年全国協議会会長による来賓祝辞、記念事業報告等が行われました。

続いて記念講演があり、「く北西インドの音楽・舞く芸能と伝承」と題し、ラジャスタニ・カルベリアダンサー（西インド砂漠地帯の民族舞踊）のマドウー先生、インド宮廷楽インド古典音楽演奏者のリリー先生・サイトウ尚登先生にご講演いただきました。講演では先生が興味を持たれたきっかけや、楽器・道具等のご紹介をいただきました。

記念講演の後は祝賀会が開催されました。清興では先ほどの記念講演の先生方による舞や音楽をご披露いただきました。記



香川県神道青年会の皆様
心より御祝い申し上げます！

念講演とあわせ、初めて見聞きする舞や楽器・音楽ばかりで大変刺激を受けました。また、プロのキックボクサー「闘ふ神主」こと香川神青の櫻木崇浩会員が登場。ご来賓の方も交え大変盛り上がりしました。香川県神道青年会の皆様には大変素晴らしいおもてなしをいただき、心より厚く御礼申し上げます。今年度は当会においても再発足四十五周年という佳節を迎え、祝賀会も開催されることとなります。全国からお越しになる皆様をしっかりとおもてなしできるように、今後取り組んでいかねばならないと改めて感じました。皆様のご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

東京研修

「英霊に感謝の誠を奉げる」



【報告者】
愛媛県神道青年会 元理事
白王神社
棚 宜 那須 重昭

平成二十九年二月二十一日から二十二日にかけて、東京研修旅行が実施されました。今回の研修旅行は、「命を懸け国を守って戴いた英霊に感謝の誠を奉げるべく靖國神社参拝と、皇室ゆかりの地を巡り神職としての教養を深める」の趣旨のもと卒会者の慰労も兼ね、十名の参加者で行いました。青年会の研修にはトラブルが付き物ですが、今回の東京研修旅行も出発前からトラブルが発生しました。

出発の飛行機が発発の為、前日の夜は早々に寢床に入ろうとしたその時、柳原副会長から「松山に前日最終便で来るはずだった飛行機が強風により飛ばなかった為、出発便が欠航となりました。」と連絡が入りました。

さてはて・・・どうなることやらと心配をしておりましたが、柳原副会長の迅速な対応により二便遅れで東京へと出発しました。

一日目、到着がお昼過ぎとなった為、日程を変更し、宮内庁楽部庁舎見学↓東京都神青との懇親会となりました。

8月30日(水)の神道青年全国協議会の夏期セミナーは
彬子女王殿下の特別講演がございます。



宮内庁楽部庁舎と懇親会



通常、楽部庁舎の見学は出来ませんが、元宮内庁式部職楽部首席楽長 上明彦先生に特別にご案内を戴き、大変貴重な見学をさせて戴きました。

そして、夜には東京都神道青年会員との懇親会を都内某所(善家副会長御用達)にて盛大に開催されました。また、二次会では夜景を一望できるお洒落な雰囲気の中、多くの会員さんと交流を深めることが出来ました。

二日目、今回の研修の大きな目的の一つである靖國神社に正式参拝しました。参集殿にて、小方権宮司様による靖國神社の由来や現状についてお話を戴きました。

平日であるにもかかわらず、大勢の方が参拝される中、若者・外国人の姿も多く見うけられました。しかし、その中には、靖國の由来を知らずただ賑わいに來る若者、社殿に悪戯をする人もいると話されました。今一度、多くの人に、靖國神社の由来、



靖國神社にて研修



「御霊・英霊」の言葉の意味を若い人達に伝えることが使命だと再認識し、本殿にて玉串拝礼をし、黙祷にて英霊に感謝の誠を奉げました。

次に田窪副会長が奉職されていた東郷神社を参拝しました。この日は、平日でしたが結婚式が執り行われていました。年間八百件ほどの結婚式が執り行われているようで、幾つもの結婚披露宴会場を拝見させて戴きました。披露宴会場から眺める庭園が見事で、春には沢山の桜が開花し人気の会場となるそうです。

また、この日は、東郷神社では海軍カレーの日とのことで、福田宮司様にお昼をご馳走になりました。この海軍カレー、当神社に祀られている東郷平八郎が考案したものだそうです。

次に明治神宮に正式参拝しました。こちらでは、野口 正隆権欄宜様と西予市出身の

吉田 充慶出仕様にご案内戴き、本殿での正式参拝、祈禱殿にてご祈禱を受けました。

次に最終目的地、神宮外苑にある聖徳記念絵画館を視察しました。ここには、明治天皇のご誕生から崩御までの出来事を絵画にて展示されていました。その数八十枚あり、教科書に採用されている絵画も多く展示されていました。

以上、すべての旅程を事故なく無事に終了し、空路にて帰路につきました。

今回、理事として初めて研修旅行に参加し、宮内庁楽部庁舎をはじめ、靖國神社、東郷神社、明治神宮、聖徳記念絵画館を初めて訪れ、お会いした方に多くをご教示頂き、学識を深めることができ、また命を懸け国を守って頂いた英霊に感謝の誠を奉げる機会を作って戴いたことに感謝し、今後は神社での教化、神職としての行いに役立てていこうと思います。



上：東郷記念館 下：明治神宮



雅楽体験

【報告者】



愛媛県神道青年会 元理事
野坂神社
宮 司 進藤 雄作

平成二十九年三月十日、午後四時より、伊豫豆比古命神社 椿会館 齋館に於いて、雅楽体験が催されました。神道青年会会員に向けて、「雅楽に興味はあるけれど、いきなり雅楽会の練習に参加するのは気が引けてしまう」「家(神社)に楽器はあるけど吹いた事は無いし教わる人もいない」といった未経験者を対象に、楽器に触れる、鳴らしてみようという内容で、講師に当会監事でもある雅楽講師、清家先輩のご指導の下、和やかな雰囲気の中で体験会が進められました。全くの未経験者は用意された三管全てを鳴らすという流れで、まずは龍笛を体験しました。低音の和(フクラ)は音こそ鳴るものの、かすれたような音しか出ず、高音の責(セメ)に至っては音が出るか出ないかで、続けると酸欠気味なのか頭がクラクラしてきました。助教の田窪さんを見ると表情一つ変わらず、唇の形も変わりが見えないのに和と責を吹き分け、綺麗な音色。私は龍笛に向いていないかな?と思いました。次に体験したのは箏。管は小さいけれど音は大きく、主旋律を担う楽器。吹けば音は出ましたが、蘆舌(シタ)というリードの咥え具合、葦舌を締める責(セメ)の調整などほんの少しの変化で音質が変わり、音色の変化に富んだ楽器という印象でした。体験してみても一番気になる楽器でした。最後に笙を体験しました。地元で笙を吹ける神職の先生に、「息を吸っても吐いて

も同じ音が出る、高価だけど簡単な楽器」と聞いていたのですが、実際に手にしてみると細い竹それぞれに小さな指穴があり、隣の指穴との距離が近く、正確に穴を指で押さえているか目で確認してから吹くのが一杯でした。「簡単」という言葉をほど遠く感じながらの体験となりました。体験会を通して感じたのは、唱歌の大切さでした。清家先輩が雅楽を始めた最初の一年は楽器を持たせてもらわず、ひたすら唱歌の練習だったという話を聞き、唱歌で音の長さや強弱を表し、楽器が無くても演奏の練習をすることができると。唱歌によつて楽器が無くとも伝承することができるといふ事が分かりました。今回の雅楽体験を終えて、すごく迷っています。先に書いた地元で笙を吹ける神職の先生は龍笛も演奏されており、本務社での大祭や助務の奉仕先で、御扉の開扉・閉扉では笙を、玉串奉奠の際には龍笛で越天楽を演奏されています。演奏を聴いた氏子さんも「本物は迫力があるし雰囲気が変わる」といった事をよく言われます。氏子さんから音色の認識が高い龍笛か、実際に吹いてみて愉しかった箏か、笙は高価な事もあり候補に入れるのは難しいですが、練習を始めるならどちらがいいか、考えてみたいと思います。また、地元には私の他に同世代の神職の先輩が二人おり、どちらも雅楽はしていないので、将来は三人で三管の演奏ができればという思いもできたので、今回のような雅楽体験があれば、二人の先輩を誘ってまた参加したいと思っています。講師を務めて戴いた清家先輩を始め、丁寧に教えて戴いた助教のお二方、また、体験用に楽器を貸し出して戴いた役員の皆様にご感謝いたします。貴重な体験、本当にありがとうございました。



平成二十八年度

神道青年全国協議会
中央研修会(広島)

【報告者】



愛媛県神道青年会 副会長
白山神社
榎 宜 大岡 宜徳

毎年恒例で三月に行われています、神道青年全国協議会主催の中央研修会が、三月二十三日〜二十四日に広島県青年神職会が担当となりANAクラウンプラザホテル広島を会場として行われました。全国から約三七〇名の会員が集まり、当会からは七名が参加しました。

今回は主題を「平和の希求」進むべき未来への道筋」と題して、二日間にわたり三人の講師による講義と、今回は会場の近くにあり、平和と記念公園 原爆死没者慰霊碑への参拝が行われました。

第一講は弁護士でタレントとしても活躍しております、ケント・ギルバート先生、「真の平和を実現するために」と題してご講義戴きました。

最初に初代神武天皇の時代から、現在に至るまでの世界の国家の移り変わりを映像にされたものを見ました。映像では国家を色の移り変わりで表していたのですが、二六〇〇年もの間変わらずに一つの国家で存続したのは日本だけでした。

そういう国内の秩序を乱す勢力がない日本が真の平和を実現するためにどうするべきか?世界

今年の観月神楽の夕べは、日尾八幡神社にて開催が決定!
9月22日(金)18時半開演 雅楽を皆でやりませんか?!

から見れば大國で大きな役割を果たすことを期待されている日本がGHQの占領政策のもとで作られた日本国憲法を自立するために改正するべきだと述べられました。そして「そろそろ日本国民は眼を醒ます時期が来た」と締めくくりました。

第二講は呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)館長の戸高一成先生、「戦後七十年と平和」と題してご講義戴きました。

戸高先生は多くの戦艦大和関係者に面会をし、生の声を資料として残すことにご尽力されており、戦後七十年を経過し戦争を知らない世代には貴重な資料として、これから必要不可欠だと思いました。

第三講は広島平和記念資料館館長の志賀賢治先生、「記憶の継承」と題してご講義戴きました。

志賀先生は昨年五月のオバマ大統領が原爆資料館に訪問された時に、原爆の悲惨さを伝えるために、オバマ氏には沢山の展示、遺品の数々を見て欲しかったと述べておりました。

そして今回、二日目朝には平和記念公園の原爆死没者慰霊碑参拝を行いました。同じ志を持ちこのような講義を受ける中で、慰霊碑の前で参拝をしたことは、貴重な経験と平和に対する意識が更に強くなったように思います。

研修会を通じて、国際平和都市の広島に於いて平和について考えられたこと、また進むべき道を切り拓くきっかけになった事は間違いないと思われました。

来年の中央研修会は長崎県です。多くの会員の参加をお願い致します。



神道青年全国協議会 第六十九回定例総会



【報告者】
愛媛県神道青年会 監事
龍王神社
権欄宜 善家 祐二

去る四月二十六日、神社本庁大講堂において神道青年全国協議会定例総会が開催されました。当会より、柳原会長と田窪副会長と私(善家)が出席致しました。

総会では、長友安隆会長、田中恆清神社本庁総長挨拶の後、定例表彰式、続いて議案審議され、役員の任期満了に伴い改選が行われる会議でも、田窪副会長は、四国地区より指名理事として選出され、神青協役員として承認されました。佐野巖(神奈川県・富岡八幡宮欄宜)新会長並びに新役員が発足致しました。

総会後、明治記念館に於いて、菊波の友垣会が開催され、顧問、OBを始め、全国より百七十名の友垣が参集して、懇親を深め各々が持つ神道人の熱い思いを語り合いながら、有意義な時間を過ごしました。



神道青年全国協議会 四国地区指名理事 就任挨拶



【報告者】
愛媛県神道青年会 副会長
吹揚神社
欄宜 田窪 大朗

この度、神道青年全国協議会の四国地区指名理事を仰せつかりました。愛媛県神道青年会副会長の田窪大朗です。香川県の猪熊地区理事とともに邁進して参ります。

実は、南坊城会長期に事業委員を、長友会長期に次世代委員を仰せつかったこともあり、今回の佐野会長期で三期目になりました。今期からは、特別委員としてではなく役員(総務局)としての出向ということで議決権も加わり、今まで以上に身が引き締まる思いです。

そして、先の善家監事の記事にもございしますが、さっそく四月二十六日に神青協の定例総会が神社本庁にて開催されました。前半は長友会長期の議案があり、後半は佐野会長期の件でしたので、全国の代議員の前に私を含め新役員が座り、就任のご承認をいただきました。

総会で役員が承認をされる以前から、特別委員会と並行して新役員予定者会議が二回ほど行われましたので、すでに来期に向けて進んでいたものの、ようやく第一歩が始まった、その様な気持ちでした。

神青協の総務局の役員ということで、全国から精鋭が集まる中で、自分の存在感も示しながらも堅実な仕事をしたい。その様な気持ちを持って、一期二年、短い間ではありますが、濃い二年間を全うしたく思っておりますので御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

9月4日(月) 三崎の八幡神社にて四国地区協議会の錬成会を開催します。
海での禊、皆でやりましょう！

再発足四十五周年 記念事業 開始

榊に想ひを込めて 再発足四十五周年 奉告祭



【報告者】
愛媛県神道青年会 理事
石鎚神社
権欄宜 湊 和樹

去る五月三十日、愛媛県神社庁の神殿に於いて執り行われました。
先ず、記念事業の一つである「榊に想ひを込めて」では、挿し木から育成し、増やし方や育て方を学びました。



剪定にも想ひを込めて

次に奉告祭では、愛媛県神社庁庁長の柳原幸様を始め、庁役員、青年会歴代会長、女子神職会、青年会会員のご臨席を賜り、柳原永祥会長を斎主として七名の祭員奉仕、六名の伶人奉仕の元、県内の神々に奉謝を捧げました。



榊の葉軸から生える葉や芽を少し残して水揚げしながら鉢に合う長さに剪定をし、根が生えてくるまでが大変で、しっかりと水やりを育てなければなりません。
奉告祭で来賓



直会の発声も兼ねた斎主挨拶では「中今の栄を願ぎ奉ると祝詞で奏上した通り、永い年月の中で任された任期を全うし、次の世代に受け継ぎたい。」と繁栄と継承への思いを述べられ、一同「弥栄」と声高らかに唱和し、盃を上げました。

直会の乾杯後には、愛媛県神社界の神職を代表して柳原幸庁長より御祝辞を賜り、現在と将来の神道の在り方に触れ、「皆様方の努力によりまして、未来をつくる事は出来ません。青年会として一つ一つの事を色々考えながら、未来へ向かって前進できる様に活動して下さい」と激励下さいました。

記念撮影後に、奉告祭でお祓いをした榊を御来賓の皆様が手に取り、想ひを込めて挿され、記念品としてお持ち帰り戴きました。

祭典後、総会が行われ平成二十八年度会務・会計・監査の報告、平成二十九年度活動計画案・予算案、再発足四十五周年に関する件が審議され、総てにおいて異議無く承認。滞りなく閉会されました。



9月20日(水) 記念米の抜穂祭を斎行します。
一緒に祭典奉仕をしましょう！

平成二十八年 会務報告

起 平成二十八年 四月 一日
至 平成二十九年 三月三十一日

平成二十八年

四月 十三日

平成二十七年年度会計監査会
(十亀会長以下五名出席)

【東雲神社】

二十日

第一回 役員会
(十亀会長以下十二名出席)

【国際ホテル松山】

全

第四十五回定時総会
(十亀会長以下二十三名出席)

【全】

全

懇親会
《井上副庁長以下十一名御出席》
(十亀会長以下二十三名出席)

【全】

二十四日

救う会愛媛役員会
(善家副会長代理出席)

【愛媛県水産会館】

二十六日

神道青年全国協議会 第六十八回定例総会
(十亀会長以下二名出席)

【神社本庁】

五月二十五日

第二回 役員会
(十亀会長以下十一名出席)

【八幡神社】

六月 二日

神道青年四国地区協議会第一回役員会
(十亀会長以下六名出席) 顧問会
神道青年四国地区協議会
(十亀会長以下七名出席)

【国際ホテル松山】

七日

神道青年全国協議会・国家安寧祈願祭
(十亀会長以下二名奉仕)

【榎原神宮】

八日

日本会議愛媛県本部 総会
(十亀会長出席)

【国際ホテル松山】

十三日

神道青年四国地区協議会・熊本地震復興支援活動
(善家副会長以下二名出席)

【熊本県】

二十一日

北方領土返還要求愛媛県会議
(善家副会長代理出席)

【愛媛県神社庁】

二十二日

愛媛県神社庁 定例協議員会
(十亀会長出席)

【愛媛県神社庁】

二十四日

第三回 役員会
(十亀会長以下九名出席)

【伊豫豆比古命神社】

七月 一日

会報「若竹」第六十六号」発刊

【愛媛県神社庁】

八日

愛媛県女子神職会 総会
(武智理事代理出席)

【愛媛県神社庁】

八月 四日

神道青年四国地区協議会

第二十二回定例総会
(柳原副会長以下四名出席)

【ホテルクレメント徳島】

『研修会』

『英霊顕彰のこれからを考える』

『第一講』「私と英霊顕彰の係わり」
講師 山田 道雄 先生

『第二講』「大東亜戦争を考える」
講師 神原 常經 先生

第四回 役員会
(十亀会長以下九名出席)

【吹揚神社】

十八日

神道青年全国協議会 夏期セミナー
『人づくりは国づくり』愛と感動の青年神職』

【神社本庁】

二十九日

第一講 「ドイツに学ぶ人づくり」
講師 (株)ヴィジヨナリー・ジャパン 代表取締役

第二講 「おもてなしへの原点回帰」
講師 人とホスピタリティ研究所 所長 高野 登 先生

鎌田 洋 先生

第三講 「文化財との付き合い方」
講師 小西美術工藝社 代表取締役社長

神社を次の時代へ伝える為に！」
デービット・アトキンソン 先生

(十亀会長以下二名出席)

【国際ホテル松山】

神道政治連盟愛媛県本部代議員会
(十亀会長出席)

【愛媛県神社庁】

会員親睦会(祭式研修会)
(十亀会長以下二十名出席)

【愛媛県神社庁】

会員親睦会(祭式研修会)
(十亀会長以下十一名出席)

【愛媛県神社庁】

第十九回神道行法鍊成会
(十亀会長以下七名出席)

【香川県丸亀市・手島】

神道青年四国地区協議会
(十亀会長以下六名出席)

【手島自然教育センター】

第二回 役員会
(十亀会長以下十名出席)

【愛媛県神社庁】

第五回役員会
(十亀会長以下十名出席)

【伊豫豆比古命神社】

参拝啓発ボスター発送作業
(十亀会長以下十名出席)

【愛媛県神社庁】

参拝啓発ボスター発送作業
(十亀会長以下十名出席)

【愛媛県神社庁】

会員各位には昨年度も各事業に御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

二十五日	第三十四回観月神楽 (十亀会長以下十九名出席)	〔日招八幡大神社〕
十月 十一日	第八回 役員会 (十亀会長以下十三名出席)	〔白王神社〕
二十六日	愛媛県神社庁 第一回定例協議員会 (十亀会長出席)	〔愛媛県神社庁〕
十一月 九日	神道青年全国協議会 臨時総会 (十亀会長以下二名出席)	〔神社本庁〕
全	菊波の友垣会 (十亀会長以下二名出席)	〔明治神宮記念館〕
十一日	第七回 役員会 (十亀会長以下九名出席)	〔厳島神社〕
二十五日	三島森田両烈士追悼四十六周年慰霊祭 (十亀会長以下十三名奉仕・参列者二十七名)	〔愛媛県護国神社〕
十二月 六日	神道青年四国地区協議会 第三回 役員会 (十亀会長以下五名出席)	〔高知パレスホテル〕
全	親睦ボウリング大会 (十亀会長以下六名出席)	〔ラウンドワン高知店〕
七日	建国記念の日奉祝愛媛県実行委員会 平成二十八年年度総会 (十亀会長出席)	〔国際ホテル松山〕
十九日	北朝鮮拉致被害者救出パレード (十亀会長以下五名出席)	〔坊ちゃん広場・大街道〕
平成二十九年 一月 一日	会報「若竹」第六十七号「発刊 年頭正式参拝」 (十亀会長以下八名参拝)	〔愛媛県護国神社〕
十九日	第八回 役員会 (十亀会長以下九名出席)	〔国際ホテル松山 フリージア〕
全	臨時総会 (十亀会長以下二十六名出席)	〔全 聚楽の間〕
全	新年研修会 演題「広島での被爆体験談」 講師 亀井製菓株式会社 代表取締役会長 亀井 好一 先生	〔全 〕
全	《三輪田副庁長以下御来賓四名御出席》 (十亀会長以下二十六名出席)	〔全 伊豫の間〕
全	《柳原庁長以下御来賓十一名御出席》 (十亀会長以下二十六名出席)	

二十六日	第十九回慰問神楽 (十亀会長以下十名出席)	〔宮内小学校〕
二月 八日	香川県神道青年会創立六十周年記念式典 (十亀会長以下六名出席)	〔高松国際ホテル〕
全	基本講演「『北西インドの音楽・舞・芸能と伝承』 講師 カリベリア・ラジャスタニダンサー madhu(マドゥ)先生	
二十一日	インド宮廷学インド古典音楽演奏者 Illynao	
二十三日	研修旅行「皇室ゆかりの地巡り」 (十亀会長以下十名出席)	〔東京部〕
二十七日	京都府神道青年会創立六十五周年記念式典 (十亀会長以下二名出席)	〔自由民主党本部〕
三月 六日	第十五回神道政治連盟時局対策連絡会議 (十亀会長以下二名出席)	〔愛媛県水産会館〕
十日	救う会愛媛役員会 (十亀会長出席)	〔伊豫豆比古神社〕
全	第九回 役員会 (十亀会長以下十二名出席)	〔全 〕
二十三日	雅楽体験会 (十亀会長以下二十名出席)	〔たにた〕
二十四日	新旧役員親睦懇親会 (十亀会長以下十九名出席)	
四月 十日	神道青年全国協議会 中央研修会 〔広島県・ANAクラウンプラザホテル広島〕 『平和の希求へ進むべき未来への道筋』 講師 ケント・ギルバード 先生 《第二講》「戦後七十周年と平和」 講師 戸高 一成 先生 《第三講》「記憶の継承」 講師 志賀 賢治 先生 會計監査会 (十亀会長以下七名出席)	〔東雲神社〕

皆様方に御協力を賜り会務が遂行出来ましたことに深謝致します
会長 十亀 雅史

愛媛県神道青年会 平成28年度一般会計歳入歳出決算書

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

歳入の部 単位：円

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付 記
1 会 費	700,000	743,000	43,000	年会費・定時総会々費・会員研修会々費・新年互礼会々費
2 助 成 金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁より
3 寄 付 金	1,300,000	1,902,000	602,000	県内神職寄付金
4 雑 収 入	2,423	0	△ 2,423	
5 繰 越 金	787,577	787,577	0	平成27年度より
歳入合計	2,990,000	3,632,577	642,577	

歳出の部 単位：円

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増減(△減)	付 記
1 会 議 費	700,000	631,860	△ 68,140	定時総会・役員会・新年互礼会・地区協役員会・監査会他
2 研 修 教 化	760,000	710,153	△ 49,847	観月神楽・慰問神楽・新年研修会・各種研修参加助成他
3 事 業 費	200,000	156,600	△ 43,400	参拝啓発ポスター
4 広 報 費	400,000	307,832	92,168	若竹66号／67号作製費及び発送費・HP管理費
5 事 務 費	150,000	110,316	△ 39,684	事務用品・寄付金其の他振替手数料
6 備 品 費	10,000	0	△ 10,000	
7 旅 費	320,000	320,000	0	神青協総会・神青協役員旅費補助・神青協臨時総会
8 慶 弔 費	80,000	29,384	50,616	慶弔金・電報代
9 分 担 費	280,000	268,000	△ 12,000	神青協及び地区協醸出金・各種友好団体年会費
10 交 通 費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑 支 出	10,000	300,000	△ 290,000	特別会計へ
12 予 備 費	30,000	0	△ 30,000	
歳出合計	2,990,000	2,884,145	△ 105,855	

歳入合計 ￥3,632,577 歳出合計 ￥2,884,145 差引残高 ￥748,432

愛媛県神道青年会 会長 十亀 雅史 提出
上記の通り相違ない事を認めます。

平成29年4月10日
監事 清家 貞文
監事 田内 逸知

愛媛県神道青年会 平成29年度一般会計歳入歳出予算書

自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日

歳入の部 単位：円

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付 記
1 会 費	700,000	700,000	0	年会費・定時総会々費・新年互礼会々費
2 助 成 金	200,000	200,000	0	愛媛県神社庁より
3 寄 付 金	1,300,000	1,350,000	50,000	県内神職寄付金
4 雑 収 入	2,423	1,568	△ 855	預金利子他
5 繰 越 金	787,577	748,432	△ 39,145	平成28年度より
歳入合計	2,990,000	3,000,000	10,000	

歳出の部 単位：円

項 目	前年度予算額	本年度予算額	増減(△減)	付 記
1 会 議 費	700,000	670,000	△ 30,000	定時総会・役員会・新年互礼会・地区協役員会・監査会他
2 研 修 教 化	760,000	800,000	40,000	観月神楽・慰問神楽・新年研修会・各種研修参加助成他
3 事 業 費	200,000	200,000	0	参拝啓発ポスター頒布事業
4 広 報 費	400,000	370,000	△ 30,000	若竹68号／69号作製費及び発送費・HP管理費
5 事 務 費	150,000	150,000	0	事務用品・寄付金其の他振替手数料
6 備 品 費	10,000	10,000	0	
7 旅 費	320,000	330,000	10,000	神青協定時総会・神青協出向役員旅費補助
8 慶 弔 費	80,000	80,000	0	慶弔金・電報代
9 分 担 費	280,000	300,000	20,000	神青協及び地区協醸出金・各種友好団体年会費
10 交 通 費	50,000	50,000	0	会長手当
11 雑 支 出	10,000	10,000	0	
12 予 備 費	30,000	30,000	0	
歳出合計	2,990,000	3,000,000	10,000	

歳入合計 ￥3,000,000 歳出合計 ￥3,000,000 差引残高 ￥0

愛媛県神道青年会役員会 提出

平成29年4月18日

今期は再発足45周年です。記念事業や記念式典を開催します。
沢山の御参加をお待ちしております。

平成二十九年 活動計画

四月	十日	平成二十八年年度会計監査報告会	【東雲神社】
	十八日	第一回 役員会	【吹揚神社】
	二十六日	神道青年全国協議会	
		第六十九回定例総会	
五月	三十日	神に想ひを込めて	【愛媛県神社庁】
		第二回 役員会	【全】
		再発足四十五周年奉告祭	【全】
		第四十六回定時総会	【全】
六月	五日	神道青年四国地区協議会	
		第一回 役員会・顧問会	【徳島県】
	八日	第三回 役員会	【三島神社】
	十四日	記念米作り・御田植祭	【伊予郡松前町】
	二十七日	記念米作り・ころがし(草抜き)作業	
七月	一日	会報「若竹」第六十八号「発刊	【伊予郡松前町】
八月	十七日	神道青年四国地区協議会	
	十八日	総会並びに研修会	【高知県】
	三十日	神道青年全国協議会	
	三十一日	平成二十九年 夏期セミナー	【神社本庁】
		第四回 役員会	【東予】
九月	四日	神道青年四国地区協議会	
		第二十回神道行法鍊成会	【伊方町・八幡神社】
	五日	神道青年四国地区協議会	
		第二回 役員会【八幡浜センチュリーホテルイトー】	

	二十日	記念米作り・抜穂祭	【伊予郡松前町】
		参拝啓発ポスター発送作業	【愛媛県神社庁】
		第五回 役員会	【中予】
		第三十五回観月神楽の夕べ	【日尾八幡神社】
十月		第六回 役員会	【南予】
	十一月二十五日	三島森田両烈士追悼慰霊祭	【愛媛県護国神社】
		第七回 役員会	【東予】
十二月		神道青年四国地区協議会	
		親睦ボウリング大会	【香川県】
		第三回 役員会	【全】
一月	一日	会報「若竹」第六十九号「発刊	
		第八回 役員会	【国際ホテル松山】
		新年研修会・新年互礼会	【全】
二月		第九回 役員会	
三月	七日	第十回 役員会	
	八日	神道青年全国協議会	
	二十九日	平成二十九年 中央研修会	【長崎県】
		再発足四十五周年記念式典	【国際ホテル松山】
		記念米作り・草抜き	
		愛媛の太鼓く映像記録保存く	
		慰問神楽	
		会員親睦研修会・交流会	
		中国五県青年神職会・神道青年四国地区協議会合同会	
		広島県青年神職会交流会	
		*時局問題への即応	

●その他、日程等は役員会にて議案審議

今回「趣味人」「それいけ！二足のわらじ」は休載です。
次号を目指し、皆様のご様子をお聞かせ下さい。

平成二十八年 助成寄付御芳名

※順不同にて掲載させて頂いております

御助成

金 貳拾萬圓也

愛媛県神社庁 殿

御寄付

【東予】

金 壹拾萬圓也

石 錫神社

金 伍萬圓也

大山 祇神社

金 參萬圓也

神 社 庁

弓 削神社

金 壹萬伍仟圓也

今 宮神社

石 岡神社

金 壹萬圓也

熊 野神社

橘 新宮神社

玉 生八幡神社

嘉 母神社

荒 木八幡大神

高 尾神社

三 嶋神社

村 山神社

周 敷神社

三 嶋神社

大 西神社

綱 敷八幡神社

大 島八幡神社

三 嶋神社

須 賀神社

別 宮大山祇神社

武 智 正 人 殿

三 島 喜 德 殿

新 居 支 部 殿

川 原 啓 三 郎 殿

佐 藤 伊 都 男 殿

越 智 基 晃 殿

田 邊 捷 殿

高 橋 幹 殿

平 川 彰 殿

石 川 郎 殿

松 本 恒 夫 殿

玉 井 忠 治 殿

越 智 嘉 津 雄 殿

柳 田 初 美 殿

井 上 嘉 津 雄 殿

馬 越 初 美 殿

及 川 徹 也 殿

菅 野 秀 利 殿

矢 野 秀 利 殿

堀 西 泰 規 殿

大 原 元 宣 殿

藤 原 康 成 殿

高 田 康 成 殿

高 濱 八幡神社

原 八幡大神社

大 浜 八幡大神社

綾 延神社

德 威神社

大 井 八幡大神社

八 幡神社

潮 早神社

吹 揚神社

多 伎神社

姫 坂神社

矢 矧神社

萩 岡神社

白 山神社

伊 曾 乃神社

喜 多浦八幡大神社

金 伍仟圓也

橘 八幡大神社

八 幡大神社

土 居神社

奈 良八幡神社

保 内八幡神社

八 幡宮

濱 上神社

碓 掛天満宮

石 清水八幡神社

金 參仟圓也

八 幡神社

金 壹拾萬圓也

伊 豫豆比古命神社

金 伍萬圓也

愛 媛縣護國神社

金 參萬圓也

神 社 庁

金 貳萬九仟圓也

矢 野 山 殿

松 垣 殿

森 正 殿

桐 野 殿

柳 田 殿

浅 海 殿

田 窪 殿

沼 崎 殿

沼 崎 殿

大 岡 殿

堀 川 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

馬 越 殿

金 貳萬圓也

嚴 島神社

伊 豫稻荷神社

金 壹萬圓也

三 嶋大明神社

還 原八幡神社

還 熊八幡神社

忽 那八幡宮

日 尾八幡宮

生 石八幡神社

波 賀部神社

井 手神社

國 津比古命神社

風 早大神宮

雄 郡神社

伊 佐爾波神社

正 八幡神社

正 友神社

三 嶋神社

勝 岡八幡神社

金 刀比羅神社

客 王神社

浮 嶋神社

湊 三嶋大明神社

高 忍賣神社

日 吉神社

神 社 庁

金 伍仟圓也

若 宮八幡神社

天 滿神社

德 威神社

金 刀比羅神社

正 八幡神社

三 嶋神社

阿 沼美神社

柳 原 殿

星 野 殿

大 石 殿

玉 井 殿

大 宮 殿

三 輪 殿

中 西 殿

武 智 殿

中 智 殿

武 智 殿

井 田 殿

玉 井 殿

正 岡 殿

高 岡 殿

野 口 殿

重 松 殿

小 野 殿

高 野 殿

武 智 殿

大 智 殿

二 子 殿

相 原 殿

後 藤 殿

都 野 殿

久 野 殿

三 好 殿

武 智 殿

別 府 殿

權 下 殿

芥 川 殿

高 市 殿

大 内 殿

殿

今年度も親睦会、研修会等の事業を計画中です！

第三十三回 観月神楽の夕べ 御祝	
金 壹萬圓也	愛媛県神社庁 殿
三島森田両烈士追悼四十五周年慰霊祭玉串料	
金 壹萬圓也	神道政治連盟愛媛本部 殿
愛媛祖國と青年の会 越智 敏雄	殿
金 伍阡圓也	
愛媛県議会議員 明比 昭治	殿
愛媛県議会議員 森高 康行	殿
愛媛県議会議員 三宅 浩正	殿
金 参阡圓也	御 縞こずえ 殿
新年互礼会 御祝	
金 貳萬圓也	清家 貞宏 殿
八幡神社 武智 正人 殿	
石鎚神社	
金 壹萬圓也	愛媛県神社庁 殿
神社庁	
厳島神社	松山 支部 殿
石鎚神社	柳原 宰 殿
和霊神社	十亀 興美 殿
伊豫豆比古命神社	三輪田 泰生 殿
湊三嶋大明神社	長曾我部 昭郎 殿
周敷神社	渡部 定詔 殿
朝日八幡神社	井上 初美 殿
櫛玉比賣命神社	田内 一弘 殿
八幡神社	井上 貞人 殿
金 伍阡圓也	渡部 太輔 殿
客王神社	愛媛県女子神職会 殿
	二神 良昌 殿
御賛同の上御寄付を賜り深謝致します 会長 十亀 雅史	

り深謝致します
会長 十亀 雅史

青年会御卒業

会則により卒会の年を迎えられました先輩方をご紹介します。

伊豫豆比古命神社 欄宜(第十三代会長)

長曽我部 信弥 様

八幡神社 欄宜(第十四代会長)

清家 貞文 様

東雲神社 宮司(元副会長)

田内 逸知 様

石鎚神社 欄宜(第十五代会長)

十亀 雅史 様

伊豫豆比古命神社 欄宜(元理事)

渡邊 平 様

浮嶋神社 欄宜

相原 宗仁 様

大洲神社 欄宜

谷本 祥信 様

八幡神社 欄宜

常磐井 歩 様

三島神社 欄宜

仙波 千穂 様

伊豫稻荷神社 欄宜

中矢 恭子 様

長年に亘り当会のご活躍にご尽力賜りまして誠に有り難うございました。会員一同

感謝申し上げます。

今後尚一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、益々のご活躍をご祈念申し上げます。

新入会員紹介(順不同)

大西神社

欄宜

及川翔一朗

瀧神社

欄宜

近藤 大仁

八雲神社

欄宜

近藤 真琴

白山神社

欄宜

大岡 裕美

周敷神社

欄宜

井上 忠勅

周敷神社

欄宜

井上 八尋

多賀神社

欄宜

中西 由大

宇氣洲神社

欄宜

相原 宗亮

高忍日賣神社

欄宜

後藤 蘭

八幡神社

欄宜

菊池 崇史

新たな仲間が加わりました。

神道青年全国協議会 行事案内

夏期セミナー

【日時】平成二十九年八月三十日(水・先負) 午後一時より開催

【会場】神社本庁

三十一日(木・仏滅)

神道青年四国地区協議会 行事案内

第二十三回定例総会・研修会

【日時】平成二十九年八月十七日(木・先勝)

十八日(金・友引)

【会場】高知県 得月楼

第二十回神道行法練成会

【日時】平成二十九年九月四日(月・友引)

【会場】八幡神社(西宇和郡伊方町三崎鎮座)

中央研修会 行事案内

開催場所 長崎県佐世保市

【日時】平成三十年三月七日(水・友引)

八日(木・先負)

愛媛県神道青年会 行事案内

記念米作り・拔穂祭

【日時】平成二十九年九月二十日(水・友引)

【会場】伊予郡松前町

観月神楽の夕べ

【日時】平成二十九年九月二十二日(金・仏滅)

十八時三十分 開演

【会場】日尾八幡神社

三島森田両烈士追悼 慰霊祭

【日時】平成二十九年十一月二十五日(土・大安)

【会場】愛媛県護国神社

再発足四十五周年 記念式典

【日時】平成三十年三月二十九日(木・友引)

【会場】国際ホテル松山

(日時未定)

○記念米作り・草抜き ○慰問神楽

○会員親睦研修会・交流会

詳細につきましてはHP等にもお知らせしてまいります。奮ってご参加ください。

